

神戸山王まつりの紹介

日吉新宮は平安時代のはじめ、最澄(伝教大師)が安八太夫安次の懇請に応じ、近江ノ国・坂本の日吉大社の御霊を移し、お祀りしたことに始まると伝えられています。

その後、平野荘(庄)(神戸町一円)の鎮守神として長い歴史の興亡のなかに郷土の人々のあつい信仰にささえられた日吉の祭りは、「神戸山王まつり」(県重要無形民俗文化財)とされています。

「神戸山王まつり」には、伝統に生きる素朴な民衆による神人合一の神輿の「渡御」が3回行われており、「朝渡御」は本祭祭の午前0時、神社から若い衆に担がれた「神輿」が幾千本の松明の明かりに映えながら、「御旅所」に奉安される朝渡り、「火まつり」です。また午後0時、御旅所から左折して横町・上新町・下新町から鍛冶屋町の通りに出て本町を通り御旅所に渡御する「昼渡御」、昼渡りです。しかし、現在は行われていません。

午後5時「王飯」の供奉・「力紙」の神事が行われて「神輿」が御旅所から神社へ渡御する「還御」です。



うしおのみや

日吉牛尾宮神輿

日吉新宮祭典行事に担がれ、1番先頭に渡御する日吉牛尾宮の神輿です。神輿は貞享4年4月(1687年)に製作されたものです。

現在神輿は、本町の氏子によって奉昇されています。



じゅげのみや

日吉樹下宮神輿

日吉新宮祭典行事に担がれ、2番目に渡御する日吉樹下宮の神輿です。神輿は貞享4年4月(1687年)に製作されたものです。

現在神輿は、横町・西保・南方の氏子によって奉昇されています。



おおのみや

日吉大宮神輿

日吉新宮祭典行事に担がれ、3番目に渡御する日吉大宮の神輿です。神輿は貞享4年4月(1687年)に製作されたものです。

現在神輿は、上新町・安次・丈六道・田(神戸町)と本庄(大野町)の5ヶ町によって奉昇されています。



にのみや

日吉二宮神輿

日吉新宮祭典行事に担がれ、4番目に渡御する日吉二宮の神輿です。神輿は貞享4年4月(1687年)に製作されたものです。

現在神輿は、三津屋・末守・北一色の氏子によって奉昇されています。



うさのみや

日吉宇佐宮神輿

日吉新宮祭典行事に担がれ、5番目に渡御する日吉宇佐宮の神輿です。神輿は貞享4年4月(1687年)に製作されたものです。

現在神輿は、宮町・井田の氏子によって奉昇されています。



まろうどのみや

日吉客人宮神輿

日吉新宮祭典行事に担がれ、6番目に渡御する日吉客人宮の神輿です。神輿は貞享4年4月(1687年)に製作されたものです。

現在神輿は、下新町・福井・下宮・更屋敷の氏子によって奉昇されています。



さんのみや

日吉三宮神輿

日吉新宮祭典行事に担がれ、最後の7番目に渡御する日吉三宮の神輿です。神輿は貞享4年4月(1687年)に製作されたものです。

現在神輿は、鍛冶屋町・昭和町・川西の氏子によって奉昇されています。

